

平成26年10月23日

筑波大学

産総研と筑波大との合わせ技ファンドの採択結果について

国立大学法人筑波大学（以下「筑波大学」という）と独立行政法人 産業技術総合研究所（以下「産総研」という）における初の試み、実用化を視野に入れた共同研究によるイノベーション創出を期待する取組みの「産総研と筑波大との合わせ技ファンド」の2次審査が、平成26年10月17日筑波大学産学リエゾン共同研究センター内にて行われ、9課題が採択されました。

1. 経緯

本事業は、筑波大学永田学長と産総研中鉢理事長が、両機関の強みを生かし有機的な発展のある連携をより深めるため、「産総研と筑波大との合わせ技ファンド」と命名し、誕生いたしました。両機関はこれまでも、共同研究やつくばイノベーションアリーナ（TIA）等で連携を行ってきましたが、更に、学術領域や研究分野の壁を越えた多くの共同研究を創出するために、それぞれの機関が予算を持ち寄り、共同研究を公募する新たな試みです。

これを期に、独創的な研究シーズ発掘からイノベーション創出に繋げる多数の共同研究が生まれ、連携が加速しより強固になることで、筑波研究学園都市における教育・研究・地域活性化の促進に寄与することを目指しているところです。

2. 採択結果

平成26年7月31日より筑波大学にて公募し67課題の応募がありました。同年10月1日1次審査（書類選考）にて18課題が採択され、2次選考（プレゼン）へと進み、2次選考では、合わせ技ファンドによる相乗効果、共同研究の効果的推進の期待度、社会へのインパクトなどを基準とし選考が行われ、9課題が採択されました。

9課題のうち数理物質系から3課題、システム情報系から2課題、医学医療系から2課題、生命環境系から2課題が採択されました。

それぞれの機関が1,000万円（1課題当たり111万円）の予算で、これら採択された課題の共同研究を遂行していきます。

3. 審査員講評

「応募数は実に67課題にのぼり、産総研と筑波大学の連携ポテンシャルの高さを示した。白熱の審査の結果選ばれた9課題は、いずれもサイエンス、産業の未来を切り拓く革新的な研究であり、今後もこの取組を続けていきたい。」筑波大学国際産学連携本部本部審議役 内田史彦氏



(平成26年10月17日 審査の様様)

■本件問い合わせ先■

筑波大学 国際産学連携本部

TEL : 029-853-3671

e-mail : ishizawa.kaori.ga@un.tsukuba.ac.jp